

株式会社フジテレビジョン

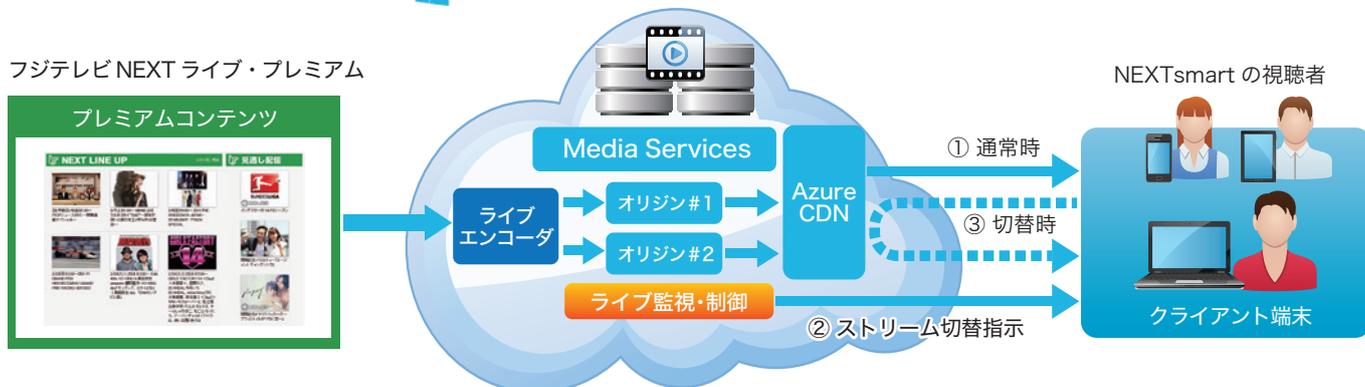
# 国内放送業界のリーダーが、日本初の24時間総合編成インターネット有料チャンネルを、クラウド型動画管理・配信プラットフォームサービスで実現

株式会社フジテレビジョンでは、地上波、BS、CSに続く“第4のテレビ”とも言える日本初の24時間総合編成インターネット有料チャンネル「NEXTsmart」を2014年3月からスタート。さらに同年10月のニコニコチャンネル、2015年3月のフジテレビオンデマンドでのサービス開始を機に、急増する利用者に対応し、より快適な視聴環境を実現するために、Microsoft Azureを前提としたクラウド型動画管理・配信プラットフォームサービス「Bizlat on Azure」を導入。有料配信サービスに求められる高い可用性とVOD運用における作業負荷を大幅に低減する管理機能を実現した。

## Point

- ① すぐ加入、マルチデバイス対応、見逃しのない24時間365日のサービスを実現
- ② “実質”100%の可用性で有料サービスに不可欠な「停まらない視聴」を実現
- ③ “ビデオ録画予約”と同等の容易な操作でVOD配信を実現する運用管理機能

Microsoft Azure + Bizlat on Azure



Active Client Switch

従来の方式では、クライアントプレイヤー側が配信異常を検知し別ストリームに切り替えていました。新方式「Active Client Switch」を使用した対応では、事業者またはサーバー設定側が、主体的に判断および切替を行います。さらに、マルチデバイス向けの複数配信方式を使って制御することが可能となります。

## User's Profile



株式会社フジテレビジョン  
ペイTV事業部長  
窪田 正利 氏



株式会社フジテレビジョン  
推進担当部長  
平野 雄大 氏



株式会社フジテレビジョン  
テクニカルプロデューサー  
関 克哉 氏



株式会社フジテレビジョン

認定放送持株会社フジ・メディア・ホールディングスの一員として、テレビ放送に代表されるメディア・コンテンツビジネスを展開。昭和34年3月1日に放送を開始し、新設分割により平成20年10月1日新規設立となる。従業員数1,380名(2015年1月1日現在)。

※ 写真左から、平野氏、窪田氏、関氏、EVC 国分

## 有料24時間配信へのチャレンジと 実現における技術上の各種ハードル

株式会社フジテレビジョン(以下、フジテレビ)が2014年3月からサービスを開始した「フジテレビNEXTsmart」は、CS放送「フジテレビNEXTライブ・プレミアム」のサイマル(同時)放送をベースにした、日本初の24時間総合編成インターネット有料チャンネル。マルチデバイス対応により、PCだけでなく、スマートフォンやタブレットからも利用できるため、インターネット環境さえあれば、F1グランプリやドイツブンデスリーガ、豪華アーティストによる音楽ライブなどのプレミアムなコンテンツを、いつでも、どこでも視聴できる。

地上波、BS、CSに続く「第4のテレビ」とも言えるサービスを本格的に開始した理由について、フジテレビパティTV事業部長の窪田正利氏は次のように話す。「有料放送を楽しむお客様はまだまだ少なく、一方でテレビ離れが深刻化しています。特に若い世代では視聴環境そのものが様変わりし、スマホやPCを使って好きな場所で好きな時間に動画を楽しむスタイルが定着しつつあります。このような状況の中で、今後視聴者を増やすためには、場所や時間に囚われないサービスの提供が不可欠だと考えました」。インターネット経由でマルチデバイスが利用できるNEXTsmartは、このような「新しいタイプのユーザー」を獲得するための格好の仕組みだ。さらに、アンテナやチューナーの設置が必要な他の有料放送とは異なり、すぐに加入して視聴できるという手軽さも大きな魅力になっている。

しかし、簡単に加入できるというメリットは、同時に、短期間で加入者数が激増し、利用環境のインフラがこれに追いつかなくなるというリスクにもつながる。このため、2014年10月のニコニコチャンネル、そして2015年3月のフジテレビオンデマンド経由でのサービス提供に先立ち、同社では、加入者の増加に柔軟かつ迅速に対応できるクラウド環境の活用を考え、プラットフォームの選定を開始。熟慮の結果、Microsoft Azureの採用を決定する。フジテレビテクニカルプロデューサーの関克哉氏は、「放送局が提供するサービスでは冗長性の確保が非常に重要であり、クラウドプラットフォームはこのような要件に合致します。マイクロソフトについては、クラウド上での動画配信において豊富な実績があり、CEOであるSatya Nadella氏が「ミスタークラウド」と呼ばれるように、企業全体でクラウドビジネスに重点を置いている点の評価しました」と話す。クラウド基盤は決まった。しかし、さらなる課題が浮上する。有料放送で求められる「停止しないサービス」の実現だ。Microsoft Azure

がいかに優れたクラウド基盤を提供しても、インターネットの特性を考えれば、配信の遅延や停止が発生する可能性は払拭できない。有料サービスという前提で利用者が期待する安定したサービスを実現するためのソリューション選定が急務となった。

## クラウド環境で“実質”100%の可用性を実現する鍵となったActive Client Switch

状況打破に向けマイクロソフトが提案したのは、インターネット経由での動画サービス、特にライブ配信に関する幅広いスキルを持つパートナーをアサインするというアプローチだった。名前があがったのは、長年マイクロソフトが動画パートナーとして協業してきた株式会社EVC(以下、EVC)だ。

関氏は、「EVC社は、“パ・リーグTV”など大規模動画配信システムの導入実績が豊富で、業界の先駆けとも言える存在でした。さらに、“Bizlat on Azure”と呼ばれる提供サービスが非常に秀逸であった点も、大きな魅力でした」と話す。Bizlat on Azureは、クラウド型動画管理・配信プラットフォームサービス。マイクロソフトのWindows Azure メディアサービスに実装済みなため、迅速かつ低コストで動画配信サービスを開始できる。



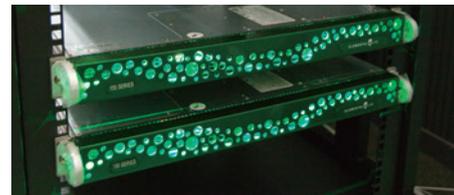
Bizlatの管理コンソール

今回の命題である「停まらないサービス」を実現するために、EVCでは、Bizlat on Azureを前提に、これまでに無いユニークな仕組みを考えた。EVC代表取締役の国分秀樹は、「インターネットは決して完全なサービス稼働を保証するプラットフォームではありません。機器を冗長構成し、一方が停止したらもう一方に切り替えるという対応だけでなく、視聴者に「停まった」と認識されることなく、サービス提供側がシステムを切り替える機能が必要になるのです。今回開発したActive Client Switchは、このような要件に対応できる仕組みです」と話す。動画配信における従来のアプローチでは、配信中に問題が発生した場合には、クライアント側が配信異常を判別し、別ストリームへの切り替えを行う。Active Client Switchの場合には、サービス提供側で主体的、計画的にストリームの切り替え判断ができ、マルチデバイス向けの複数

配信においても、同一の制御が可能となっている。さらにEVCでは、VOD配信の運用管理機能を開発し、新たなNEXTsmartプラットフォームに実装した。こうしてニコニコチャンネルおよびフジテレビオンデマンドでのNEXTsmartは無事にサービスを開始した。

## 視聴者の急増への柔軟で迅速な対応 VODの運用管理負荷も大幅に低減

Bizlat on AzureベースのNEXTsmartでは、豊富なプレミアムコンテンツに加え、見忘れたコンテンツを視聴できる「見逃し配信」など充実したサービスを提供。リアルタイムではもちろん、好きなタイミングで繰り返し視聴することもできるようになった。視聴者は、インターネット経由であることを意識しないほど快適な利用環境でコンテンツを楽しんでいる。



リアルタイムサービスを支えるライブエンコーダ

Bizlat on Azureの導入効果について、窪田氏は次のように話す。「NEXTsmartのプラットフォームがクラウド環境に移行したことで、視聴者を一気に拡大することが可能になったことは大きな導入メリットです。また、以前のシステムではVODの運用管理に大きな作業負荷がかかっていましたが、EVC社のBizlat on Azureと今回開発した管理機能の併用により、大きな効率化が図れました」。フジテレビ推進担当部長の平野雄大氏は、「わずか1ヶ月半でサービスを開始できたことは非常に重要でした。2014年10月にはF1の日本グランプリ開催が予定されており、ビジネス的にはサービス開始に絶好なタイミングだったからです。通常では考えられない程短期間なプロジェクトでサービス提供を開始できた背景には、EVC社の貢献とBizlat on Azureの存在があったと感じています」と強調する。

今後、全有料放送利用者の10%をNEXTsmart会員として取り込みたいと考えるフジテレビ。「放送と配信機能を併せ持つ」という他社には無い優位性を最大限に活かし、24時間365日というこれまでは無かったユーザーエクスペリエンスを実現した同社のサービスにおいて、Microsoft AzureとBizlat on Azureは、既に必要不可欠な存在となっている。

※この事例は2015年3月時点の情報を元に構成しています



株式会社EVC

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-1-7 東陽ビル4階  
TEL : 03-5687-5841 WEB : <https://www.evc.jp/>